

- 7月14日 第1回 16名
委嘱状交付、顔合わせ、現状把握、課題共有、スケジュール確認、第1回アンケート設問確認
委員総意で賑わいは必要。求める賑わいの種類は？経済(外向き)、住民の交流(内向き)、移住
- 8月 第1回アンケート 328/1000 回答率33%
住民意識の現状確認、賑わいの必要性、意見、要望の確認
7割が賑わいは必要。飲食店、買い物、観光客、住民コミュニティーなど、多種多様な賑わいを求め、物産、飲食店やカフェ、映画館などの要望が多かった。
- 8月31日 第2回 16名
第1回アンケートを受けて、グループワーク。地域の人を中心に置いた賑わい。

第1回ワークショップ 12名
住民の意見要望の深堀り。この街には、家族や友人と思い出を作る場所がない。

第2回ワークショップ 4名
住民の意見要望の深堀り。街の成り立ちや歴史的知見も大事。
- 10月26日 第3回 11名
第1回アンケート、2回のワークショップで住民の意見を広く聞いた。今度は、絞り込んで、具体化していく。

・賑わいを創り出すためのターゲット:新しくチャレンジする人、学生
・キャッチフレーズ:挑戦しやすい場所、使い勝手のいい街

・キャッチフレーズ:新しい商店街、楽しい商店街、人に会って元気がもらえる商店街、自然と調和した商店街、みんながプレイヤーになる街、全部を我がことで進めて行く街
- 11月 会津西陵高校生アンケート 178/323 回答率55%
次の世代である若い世代の現状意識の確認、どんな街になってほしいか？
街の中に居場所がない・・・
- 12月7日 第4回 10名
高校生アンケートの分析。街の中に居場所がない。やはりこの世代も居場所を求めている。
先進事例、国見町「アカリ」、大田原市「えんがお」。こうなって欲しいというたたき台、プロトタイプを作り、第2回のアンケートに反映させ、住民に問う。
・全世代のサードプレイス。街中にスペースをつくり、来る理由を創り出す。
・居場所をつくりだすのではなく、居られる場所をつくる。
- 2月 第2回アンケート 336/1000 回答率34% 336のうちオンライン回答76
これまで、方向性の絞りこみ、幅を持たせるように複数。

町民アンケート 103件 ライン登録数約2000
方向性の絞り込み
- 3月18日 第5回
大まかな方針の決定

住んでいる人が生き生きと楽しんでいる
全世代、居心地のいいサードプレイス
家族や友人と思い出をつくるまち

R5 ふりかえり

1. 高田地域の中心市街地についての方針は、

1	昼は高齢者、夕方は学生、夜は大人。週末はごちゃまぜの世代間交流で趣味や娯楽を楽しむサードプレイス 集客装置は、時間帯によって形態を変え、みんなのサロンになるカフェ ここに来る理由は、趣味娯楽を楽しむため、会いたい人に会うため	コミュニ ティ
2	時間帯で経営形態の変わるチャレンジショップストリート 集客装置は、飲食店、クラフトアート、Eスポーツなどのチャレンジショップ ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、欲しいものを買うため	商業・観 光振興
3	マルシェなどが開催できるように「まちなかフリースペース化」「まちごとイベント会場化」 集客装置は、マルシェなどのイベント ここに来る理由は、イベントを楽しむため	商業・観 光振興

※複数の機能の共存の可能性を探る。

2. 旧高田公民館跡地についての方針は、

1	全天候型、シャワーを備えた健康運動施設(高齢者の軽運動も) ここに来る理由は、ひとりでも、仲間と一緒にでも、健康増進のため	健康増進
2	災害時移動できるコンテナハウス、トレーラーハウスでつくる バザールのようなカフェや直売所、ファーマーズマーケット ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、楽しい時間を過ごすため	商業振興
3	チャレンジショップやチェーン店による飲食店街 ここに来る理由は、美味しいものを食べたり、楽しい時間を過ごすため	商業振興
4	マルシェができる全天候型のイベント広場。平時は遊具を備えた 子どもの遊び場として開放し、トイレ駐車場完備 ここに来る理由は、イベントを楽しみ、家族でたのしい時間を過ごすため	観光振興

※複数の機能の共存の可能性を探る。

必要なサブ機能として、

駐車しやすい駐車場、近い駐車場
きれいなトイレ（ベビー、高齢者、障がい者、オストメイト対応）
新聞雑誌、SNSによるタイムリーで継続的な情報発信
冷房、暖房など快適な空間
高齢者、障がい者、幼児などに配慮したバリアフリー施設

R5度の振り返り

旧高田温泉あやめの湯の利活用に関する提言について

わたしたち、旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会のメンバーは、町民アンケート調査結果及び当委員会での検討結果を踏まえ、旧温泉施設の新たな利活用の方向性について、下記の機能を有する複合的な施設を提言いたします。

記

新たな施設が有する機能は次のとおり

1 観光施設

地元の農産物や加工品、お土産品等の販売と併せ、簡易な飲食ができる休憩場所

2 町民が集まれる場所

未就学児や小学生以上の子ども、高齢者を含めた大人も気軽に利用できる場所

3 スポーツ施設

町民などが、健康維持を目的とした屋内トレーニングができる場所

※具体的な内容は裏面のとおり。

令和5年12月25日

会津美里町長 杉山 純一 様

旧高田温泉あやめの湯利活用検討委員会

委員長 天竺昌明

具体的な内容

※以下の内容について、状況に応じた選択をお願いしたい。

1 観光施設

- お土産、農産物、加工品の販売スペース
- カフェ等の食事提供スペース
- 地産地消のレストラン
- 宿泊場所

2 町民が集まれる場所

- 遠足などの郊外活動で雨が降った場合に利用できる場所
- 子どもが自由に遊べる場所（絵本・おもちゃ等の設置）
- 未就学児が遊べるスペース
- 小学生以上の子どもが遊べるスペース
- 高齢者の方が集会的に使えるスペース

3 スポーツ施設

- トレーニングジム
- 屋内トレーニング器具等の設置
- シャワールームの設置

【参考資料】

- 1 第1回検討委員会資料
- 2 第2回検討委員会資料
- 3 第3回検討委員会資料
- 4 第4回検討委員会資料
- 5 アンケート調査結果

令和 6 年度

高田地域まちなか賑わい創出協議会で決めること

- ① 「未来ビジョン」をつくる
- ② 「未来ビジョン」を受けて、町への施策計画についての提言書をつくる。
- ③ 賑わいを創り出していく母体となる準備組織（エリアプラットフォーム）をつくる。

対象エリア

- ① 伊佐須美神社周辺（横町門前町通り含エリア）
- ② 旧高田温泉あやめの湯（施設）
- ③ 横町門前町通りから旧会津美里公民館跡地の国道401号線（エリア）
- ④ 旧会津美里公民館（施設）
- ⑤ その他のエリア（会津高田駅周辺等）

期間

令和 7 年 3 月末まで

高田地域まちなか賑わい創出協議会の最大目標

住民満足度、幸福度を感じられるようにする。

どこでもよいではなく、会津美里町で。

この町に住んでよかったと実感できることを少しずつ増やすチャレンジを続ける。

幸福は人によって異なる。

人と人の繋がりによって、自分も他者も心が満ち足りた状態になることを目指します。

ほどよい距離感のコミュニティ。それを継続するには、ある程度の利益、経済活動も必要。

古来、町はコミュニティと経済活動で成り立つ。門前町、宿場町、港湾都市など。

幸福で健康な人生を歩むにはどうすればいいのか。言語学者で明治大学教授の堀田秀吾氏は「ハーバード大学の75年間にわたる追跡調査によると、人間の幸福や健康は、年収、学歴、職業と直接的には関係ない。関係があったのは『いい人間関係』だった」という――。

『出典：PRESIDENT Online 2021/04/30 15:00』

目標の細分化

- | | | |
|----------------------|---|-----------------|
| 1 住んでいる人が生き生きと楽しんでいる | → | 生きがい、楽しさ、自己存在意義 |
| 2 全世代、居心地のいいサードプレイス | → | 居場所 |
| 3 家族や友人と思い出をつくるまち | → | アイデンティティ、人材育成 |

実現していくために、どうするか？

- 1 人を育て、コミュニティ（共同体）を育てる。

何をやるにも最後は「人」。人こそ資源。その「人」を育てる「仕組み」を継続する。

人は人の中、すなわち「コミュニティ＝共同体」で育つ。程よい距離感が大事 **①人づくり**

- 2 経済活動を回し、利益とメリットを皆に波及させることで持続性。 **③利益は燃料**

ちゃんと儲ける。続く仕組みは利益とメリット。やる気の搾取にならない。可能な限り自走。

- 3 環境を整え、同じ方向にベクトルを整える。

②環境づくり

④ベクトル（一体感）

無駄に労力と経費は落とさない。やっていくことがちぐはぐにならないように交通整理。

具体的には？

- 1 マルシェでチャレンジする。みんなの力を持ち寄る「元気玉方式」。

利益、メリットが継続性。無理しないマルシェを続けることでプレイヤーが集まり、育つ。空き店舗の利活用など、ああしたい、こうしたいが生まれる。

イノベーションの種を蒔き続ける。一方で観光資源化も狙い、物産施設の可能性を探る。

- 2 「まちづくりは人づくり」を進めるチームをつくる。（高田エリアプラットフォーム）

まちづくりはエンドレス。個々で戦わない。各世代を取り込み継続性を担保。

- 3 チャレンジする人や組織の居場所スペースを作り、応援する支援策を充実していく、行政の支援策、金融支援の充実

- 4 地域通貨（電子）を血液に！

「地域通貨」で地域経済を回す。みんなのやる気を対価に。

- 5 継続できる利益を上げ、可能な限り自走をめざす。

スタートアップの支援は受けつつも、補助金頼みにならない。

人とチーム

= コミュニティを作り、
経済活動を回せば、

「まち」は維持可能→
住民も観光客も WinWin

高田エリア 未来ビジョン (案)

0年目 R7 2025	前期 (2025R8～	中期	後期 (～2035R17)	
ホップ ①人づくり	エリアプラットフォームが先導	実績と自信をつけてレベルUP ハード整備 ジャンプ	④ベクトル化	
	マルシェが人材、チームをつくる (ソフト)			
	下部組織 (協力隊、農業者、プレーヤー)			
マルシェ		小さな実績を積み重ね、説得力と自信を実装 別々に向いているみんなの矢印を交通整理	③利益は燃料	
①伊佐須美神社-横町門前町通り定期マルシェと直売所 (空き店舗活用)		民間活用の観光施設 実績と自信をつけてレベルUP		
小さな成功例で実績と自信 (中身を先に作る)				
②環境づくり		スポーツ施設で健康増進とコミュニティスペース 直売所を拡大	③利益は燃料	
②旧高田温泉あやめの湯				
③国道401号線エリア		空き店舗活用のチャレンジショップ (体験型民泊＆飲食) 滞在時間を長くする。本町の個性が活かせる。副業ができる。		
④旧会津美里公民館跡		イベントコミュニティスペース トレーラーハウス、駐車場、トイレ	③利益は燃料	
⑤その他 (会津高田駅他)		トイレ整備		
利益がなければ継続性はない。原則、行政はスタートアップ支援。3～5年で自走。ただし土地使用料等の支援は必要。				

高田まちなかにぎわい創出協議会 高田エリアプラットフォーム、未来ビジョン作成スケジュール

	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
主なイベント	9月10日				10/20まちミセM	ワインフエス Eスボーツ		11/17未来マチミセ					大儀引					文珠			
議会																					
協議会	第1回					視察、第2回								第3回			第4回				(第4回)
エリプラ														第1回			第2回				第3回
ワークショップ				1回		2回			(3回)												
町計画作成								素案作成						計画(案)作成							
ビジョン作成								将来像イラスト作成						ビジョン(案)決定				デザイン			
アンケート														信を問うアンケート							
ヒアリング			ヒアリング																		